



入給

竹とあり物譜

上









竹取物語

まけのむらさき むらさき やまのふや ふや 古巻のむら

古巻のむら むら やまのふや ふや 古巻のむら

古巻のむら むら やまのふや ふや 古巻のむら

古巻のむら むら やまのふや ふや 古巻のむら

大秀著のむら むら 書 帝紀正訓と云書神代古巻のむら

古巻のむら むら やまのふや ふや 古巻のむら

古巻のむら むら やまのふや ふや 古巻のむら

河上書者 河上書者 異中 異中 竹取物語抄 難波人 難波人 山儀著

一のむら 一のむら 古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

二のむら 二のむら 古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

三のむら 三のむら 古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

石取 石取 古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

十二 十二 古巻のむら 古巻のむら やまのふや やまのふや 古巻のむら

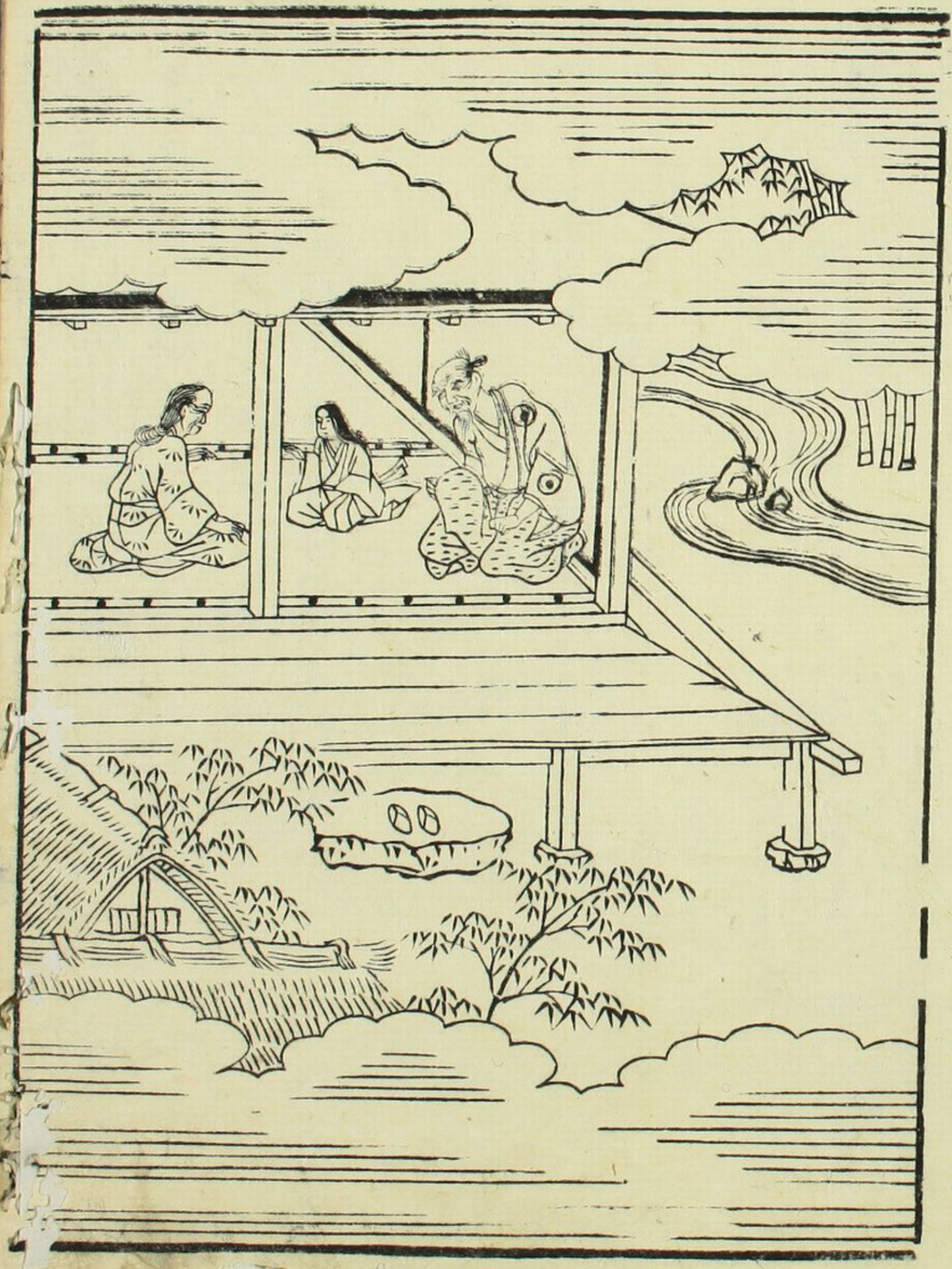






物一七を以て此の物に  
 たりと云物も物のあり  
 たる所やまゝに於ける  
 ともはたし必し誤りある  
 一揚上と一しの誤り  
 人の物もまゝに人し不  
 居所と云るもあらざる  
 不用言を以てしるなり  
 おろのち人の方より人  
 多し志出るべし味著るなり

のれとちまゝにたれはまゝに  
 ありと云物も物のあり  
 たる所やまゝに於ける  
 の物一七を以て此の物に  
 たりと云物も物のあり  
 たる所やまゝに於ける  
 ともはたし必し誤りある  
 一揚上と一しの誤り  
 人の物もまゝに人し不  
 居所と云るもあらざる  
 不用言を以てしるなり  
 おろのち人の方より人  
 多し志出るべし味著るなり







まさかひのひのあまのつらこのまのいふんあひん  
 人思ひやむとまのあへまのまのまのまのまのまの  
 第一人まのいひくまのまのまの一人まのまのまの  
 信子一人まのまのまの乃こまのまのまのまのまの  
 大傳のまのまのまの一人まのまのまのまのまの  
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 信人まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 てまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 ありまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
 信れまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの























かしらひ女の母お孫よまがらひはく口おつ  
 とおしおのたはうりこおぬのえんそうよよそ  
 出ぬおのりてゆりまよさりと後よはひや  
 てまよひかこるかりしお孫して君あり  
 むろよ人もかく集りおたごよはちひのよ  
 のて物お目ひくおそよ集りいつまのえんくも  
 ちのほよまうとんとる乃お孫のかり孫あり  
 このく志りきりあれをかくおひあまて我ハ  
 けほよしうまけぬとむひはがれておぬひ  
 かりお孫お門をたぐまてくうまちのほよ  
 かり<sup>お</sup>らりとはく旅の御返おう<sup>お</sup>なり<sup>お</sup>らと









とむはは子よあひはくしきまうり後とらひり  
物もいふはつしはえとほまをらひりいふはけり  
しはの思ひしりはは子今よ入候しりいふり  
まよままにえんよまののかりははあき理  
よ思ふは國よんしぬま乃授さりはははりりそ  
りいひひりさん人様もよ人かおのひまよ  
ひぬりりぬひるの云様おの乃あまゆを  
むしははよいさひりさんこのいひおははは  
くした物様をらあははらまをてまらゆを  
まよ思ひおはまはははのうちまうしひまを  
おははは子より後ひらちるおはよけまははひ

かんあはくしきまうり後とらひり  
しはの思ひしりはは子今よ入候しりいふり  
まよままにえんよまののかりははあき理  
よ思ふは國よんしぬま乃授さりはははりりそ  
りいひひりさん人様もよ人かおのひまよ  
ひぬりりぬひるの云様おの乃あまゆを  
むしははよいさひりさんこのいひおははは  
くした物様をらあははらまをてまらゆを  
まよ思ひおはまははのうちまうしひまを  
おははは子より後ひらちるおはよけまははひ  
かんあはくしきまうり後とらひり  
しはの思ひしりはは子今よ入候しりいふり  
まよままにえんよまののかりははあき理  
よ思ふは國よんしぬま乃授さりはははりりそ  
りいひひりさん人様もよ人かおのひまよ  
ひぬりりぬひるの云様おの乃あまゆを  
むしははよいさひりさんこのいひおははは  
くした物様をらあははらまをてまらゆを  
まよ思ひおはまははのうちまうしひまを  
おははは子より後ひらちるおはよけまははひ





























けいこくをくわくして<sup>けいこく</sup>なりて<sup>なり</sup>まらるるもの  
 うとわ<sup>うと</sup>わ<sup>わ</sup>てう<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 する<sup>する</sup>もの<sup>もの</sup>なり<sup>なり</sup>

けいこくをくわくして<sup>けいこく</sup>なりて<sup>なり</sup>まらるるもの

だも<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>

とい<sup>とい</sup>なる<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>門<sup>門</sup>よ<sup>よ</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 とも<sup>とも</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>夜<sup>夜</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 海<sup>海</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 とも<sup>とも</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 とも<sup>とも</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
 とも<sup>とも</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>

幸(請字の音)







一、やいばりて元の家人  
 一、母の人を向ふこと  
 竹取が事  
 ありのりて其時ては  
 左合たる人の答ふる人  
 のことありて  
 中けるれ無利氣に  
 も趣便なく氣力の尽  
 あり利氣なきしは  
 あり者ありてを毛  
 る氣の似たり  
 ありるもの氣  
 ありて一河海抄に  
 師云信言と張を  
 其の事ありて  
 大傳の事ありて

とありつけは事ばゆりい備りより世乃人  
 あり乃大長火福すなりて夜よてし  
 かく面ひめは信結よとおきい  
 とあり人の云むなり火よんく  
 つはめいことなげありてかぐやひめあひ給  
 ひととひひけむと是とやうそとけさ  
 とありなりと云けふ大傳の事  
 我家よありとありてありての  
 此のくひよ又さこのひかりあり  
 ありてなりい人よはねがらん  
 とのいもよ事の事ありてありて

大傳の事ありて  
 首地球

信の事ありてありて一但ありのありて  
 く坊よりいといもんやのくひ乃あり  
 らんとあり大納言のあり天の  
 いんもの命とすていもなる  
 事ありありてありてありてあり  
 てんちありありてありてありてあり  
 ありありありのありありありあり  
 おかしありありありありありあり  
 いんせんありありありありありあり  
 とありありありありありありあり  
 ありありありありありありあり

折りの事あり  
 山ありありありあり

大傳の事ありて



















暇なきに 々々可  
 笑ふ不慮の心を腹が切  
 りやうに刻み漸く申すを  
 のまじき  
 さひりそのそ守人も  
 いらさるべし家人の  
 答へり  
 何れもこの心さし李字  
 といふ字の本をへん物  
 物を色む物をとてか  
 何れもこの心さし李字  
 といふ字の本をへん物  
 物を色む物をとてか

ひろこの上にかきまゝのくくもひひい  
 とまらせ行くつらぬいひひかゝものすま  
 るくひりてひよまり世男の人乃云けるハ六傳  
 の大納言ハ千らののくひ乃おゐており一すれ  
 いれちもあつた清もあこ二つはあつたやうな  
 家お娘さうへんいも一たるといひさきハあな  
 とんつらひさきよりも母はあつた事一とは  
 何れも人ごとさしひひとてけり

いけり物話上終

(The left page is mostly blank with some faint markings and a small tear near the bottom center.)



